



つむぎだより No.12

◇おやつ談義①◇

さて皆さま、今月より川東がコラムを担当いたします。事業所を合併、法人化し、はや1年。お互いの特色もわかってきました。が、私が一番衝撃的だったのが、『おやつ』です(笑)。

女性が多数派なのですが、男性2名(1名は代表)がびっくりするほど『おやつ』を食べます!! 昼食前から始まり、3時のおやつ、そして夜も…。しかもケーキもあんこもOK。許容範囲はその腹囲のように幅広いのです。

買ってきたものは、大体当日か翌日にはなくなり、お客様から頂いたものも、賞味期限を待たず、見事に食べつくしてくれます。

そのため、なんとなくスタッフ同士がおやつを持ち込んで、みんなで食べるのが習慣となり、それぞれの好みもずいぶんわかるようになってきました。

コロナ禍で忘年会や新年会はできませんでしたが、事務所内で食べることを楽しみながら仕事をしている今日この頃です。(川東)

★2021年4月号

1、パート・有期社員待遇改善は進んでいますか？

★企業へのアンケート結果

正社員と非正規社員の不合理な労働条件の相違を禁止する「同一労働同一賃金」が、令和3年4月1日から、中小企業に対しても義務化されます。この法律の施行を前に行われた企業へのアンケート結果が公表されました。

★待遇差の理由等が説明できるか

パート・有期雇用労働法では、従業員本人からの求めがあれば、正社員とパート・有期との待遇差の理由等を説明しなければなりません。パート・有期雇用労働法等について「内容まで知っている」企業のうち69.3%が「大半の待遇差を、説明できると思う」と回答しましたが、「内容がわからない」などとした企業では、45.1%にとどまっていました。

★待遇差をなくすための取組み

調査では、遇差をなくすためにこれまでに取り組んだ内容が挙げられていますが、今後取り組む予定として多かったものには、

- ・退職金導入や算定方法等の見直し
- ・諸手当導入や算定方法等の見直し
- ・派遣労働者の活用、あり方の見直し等が挙げられていました。

待遇差をなくすために、基本的な賃金の算定方法や算定要素の見直し等は

当然として、今後は、上記のような点も意識していく必要があるでしょう。

この調査は施行前に実施されたものですが、調査は、賃金や賞与、手当や休暇制度等についての動向がわかるようになっていきます。今後の取組みの参考にしてください。

出典：労働政策研究・研修機構

『『パートタイム』や『有期雇用』の労働者の活用状況等に関する調査結果企業調査編』

<https://www.jil.go.jp/institute/research/2021/207-1.html>



＝季節のコラム＝

『春眠暁を覚えず』とはいいませんが、本当に春は眠い季節ですね。

脳を持つ動物に睡眠は欠かせませんが、例えば酸素供給のため泳ぎ続けないと死んでしまうマグロは、24時間泳ぎ続けています。眠らないのかというと、実は左右の脳を交互に休ませる『半球睡眠』という方法で睡眠をとっています。

渡り鳥もそうだと思われていましたが、最近の研究では、数分間ずつ完全に熟睡しながら飛んでいたことがわかってきました。

残念ながら、人間には『半球睡眠』ができませんので、毎朝キチンと朝日を浴び『体内時計』をリセットして、快眠生活を心がけたいですね。（鹿島）



社会保険労務士法人つむぎ

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目1番22号

フェアステージ大手前ビル7階

電話: 06-4397-3358

FAX: 06-4397-3359

Email: info@sr-tsumugi.or.jp

営業時間

平日 9:00～18:00

HP: <https://sr-tsumugi.or.jp/>

2、コロナ禍における事業承継の課題

◆事業承継の現状とコロナ禍の影響

日本商工会議所が公表した「事業承継と事業再編・統合の実態に関するアンケート」調査によれば、会員企業の後継者の決定状況は「経営者年齢が60歳以上の企業」で約半数が決定済みである一方、後継者不在の企業が約2割もありました。また、中小企業では親族内承継が約8割を占めているものの、親族外への承継も増加しています。

今回は、コロナ禍の影響で売上が減少している企業ほど、事業承継予定時期を後ろ倒しにする傾向があることがわかりました。一方で、経営者の在任期間別の利益状況をみると、「社長就任後10年未満の企業」の約6割が直近期黒字の一方、「社長就任後30年以上の企業」はコロナ禍を受けて赤字を見込む割合が最も大きく、事業承継によって経営を活性化している企業がコロナ禍においても業績を上げている傾向があることがわかります。

◆事業承継の課題とM&A

事業承継の課題としては、後継者への株式譲渡に際して「相続税・贈与税が高い」「後継者に買取資金がない」と、税制・資金面の悩みが多いようです。昨今増加中のM&Aの買収先の7割は後継者難が深刻化している小規模企業となっており、M&Aが事業継続の受け皿となっていることがわかります。

コロナ禍においても、事業承継の計画は遅らせることなく進めていくことが必要といえそうです。



3、今月のおすすめ本

今月は「松下幸之助はなぜ成功したのか 一人を活かす、経営を伸ばす一」（江口克彦著）をご紹介します。

先日ご縁があつて、著者の江口先生にお会いする機会がありました。松下幸之助翁の側近であつたということで、直接やりとりされた幸之助翁とのエピソードはとてもリアルなものでした。

この書籍でも、そのリアル感が伝わってきます。経営の神様と呼ばれていた方ですが、すべての行動の根底に「人間は偉大な存在（＝人間大事）」という人間観をもっておられたそうで、この人間観から、周りの人間をどうみるか、どう捉えるか、そして誰からも学ぼうとする姿勢が、多く

の人の意見を集め、それを参考にした「衆知による経営」の実践となつたのです。

現在であれば『パワハラ』と言われるほど厳しい方だったようですが、根底にあるこの人間観が、「この人ならついていこう！」と思わせたのでしょう。

誰からも素直に学ぼうとする姿勢はとても大切です。ぜひ、読んでみてください。

（川端）

